

令和7年2月10日



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター 関西育種場

菅原道真公伝説の残る「河上神社のイブキ」の里帰り

りんぼく
ー林木遺伝子銀行 110 番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組ー

ポイント

菅原道真公伝説の残る「河上神社のイブキ」(兵庫県洲本市)の後継樹の苗木が、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター関西育種場から里帰りします。

概要

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター関西育種場(岡山県勝田郡勝央町)では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業では、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を行うとともに、事業の一環として、要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を行っています。

今回は、兵庫県洲本市の河上神社から増殖の要請を受けた「河上神社のイブキ」(ビャクシン)の後継樹として、さし木によって増殖し育てた苗木が里帰りします。

日時：令和7年3月2日(日) 11時00分～12時00分

場所：河上神社(兵庫県洲本市五色町鮎原南谷 562-1)

問い合わせ先

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター関西育種場

事業責任者：遺伝資源管理課 課長

かしわぎ まなぶ
柏木 学

担当者：遺伝資源管理課 収集管理係長

ちの れい
千野 怜

広報担当者：連絡調整課 課長

ふじた あきひろ
藤田 彰宏

連絡調整課 連絡調整係長

はやし かつひろ
林 勝洋

Tel : 0868-38-5138 Fax : 0868-38-5139

本資料は、兵庫県政記者クラブ、淡路島記者クラブに配布しています。

背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。

このため、林木育種センターでは、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱しているこれら樹木の後継樹を増殖し、里帰りを行う取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。これまでに、全国から 333 件の要請があり、255 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました（令和 5 年度末）。後継樹は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていることから 2 世として大きく成長することが期待されます。

内容

今回里帰りする後継樹の親木は、兵庫県洲本市の「河上神社のイブキ」です。樹齢約 500 年と推定され樹高 16.5m、直径約 110cm にもなる巨木で、菅原道真公が植樹した、あるいは道真公が置き忘れた杖が芽をふき成長したなどの伝説が残ります。

平成 26 年にイブキの異変に気づき、同年 11 月 16 日に樹木医を交えて調査が行われました。この調査をきっかけに、土壌改良や灌水などがされてきました。イブキの生命力は信じられないほど強く、わずかに残った表皮より生き延びることができました。

しかし、一度は回復したものの、平成 30 年に衰勢の兆しを見せ、粘菌が樹皮を浸食していることが判明したため、令和元年に県・市の補助金を活用してコウヤクダケ病の処置を行いました。治療を実施する際に、樹木医より後継樹を育成してはどうかとの提案を受け、令和 3 年に「林木遺伝子銀行 110 番」を実施するに至りました。

令和 3 年、現地で採取が行われ、さし木増殖した後継樹苗木が 4 年間の育成期間を経て、令和 7 年 3 月 2 日に河上神社へ里帰りし、神社境内へ植栽されます。植栽に際し式典と植樹が行われる予定です。

図、表、写真等



「河上神社のイブキ」



後継樹苗木